

第1回姫ボタルまつりの実施

藤原 利正・岸本 稚世
(姫ボタルまつり実行委員会)

1. 実施の目的

兵庫県丹波市山南町においては、ヒメボタルの棲息確認地点は100ヶ所以上（平成18年度調査で160ヶ所確認）あり、全国的に見ても有数の棲息地といえますが、決して喜ぶべき現実とはいえません。半世紀前に棲息調査を行えば、おそらく現在の棲息地の1割以下の棲息地確認となったと思われます。なぜかといえば、半世紀前には町内全般に広く棲息していたと考えられ、大きな棲息地が開発により分断され、かろうじて残った狭い場所に細々と生き残っているのが、現在の姿と認識しているからです。

そこで、現在残された自然環境をいかに後世に伝えるか、ヒメボタルをシンボルとして前面に立てた方策を模索いたしました。

- 地域住民にヒメボタルを通して、丹波の自然環境への関心をより高めてもらう。
- ヒメボタルが地域の貴重な財産であり、地域振興の材料になるとの認識を広める。

上記2項目の早期実現への第一歩として、「姫ボタルまつり」を計画いたしました。この姫ボタルまつりの成功と継続が、人と自然の共生への有効な方策の一つと確信して。

2. 実施への組織形態

姫ボタルまつりの実現には、一つの団体（例えば梶自然愛好会）でも可能ですが、上記目的達成へは、できるだけ多くの団体の共同が不可欠と考え「実行委員会方式」を採用いたしました。（実行委員：約50名）

- 実行委員会構成団体：漢方の里さんなんワクワク隊・梶自然愛好会・丹波農村ビオトープ連絡会・山南町ボランティアガイドの会・山南町ステージスタッフ
- 共催団体：丹波市観光協会山南支部・山南町商工会・ふれあいの祭典実行委員会・県立人と自然の博物館
- 後援団体：行政・各種団体・マスコミ他多数。

3. 実施計画

- 実施期間：平成18年6月10日(土)～7月16日(日)
- 観察会：期間中各週土曜日（最終日のみ日曜日）の計6回、19:00～21:00
※ 観察会実施日以外の観察希望者にも、可能な限り対応
- 移動方法：集合場所から会場まで、マイクロバス2台でピストン輸送
- 昼間のイベント：11種類のイベントを日替わりで実施
目的：都市部住民に山南町を広く知ってもらうと共に、何を丹波に期待しているのかの意向調査
- PR活動：のぼり100本、ポスター200枚、チラシ14,000枚、実行委員各位の知人への案内500通以上、丹波市内全24小学校へ出向いてPR、マスコミを通じてのPR他
- 農産物等販売：集合場所に臨時の販売所を設け、農産物・特産品等の販売。
- 宿泊手配：150名/回の宿舎確保

4. 観察会実施場所

観察会の実施場所は、ヒメボタルの発生状況に応じて前日に決定し、季節の進行とともに、平野部から山間部へ、4ヶ所で観察会を実施しました（図1、2）。

5. 実施結果

○ 各回の参加者

6回の観察会とその他の参加者を合わせ、2,000名以上が参加されました。各回の参加者はつぎのとおりでした。

第1回	200名以上
第2回	230名以上
第3回	280名以上
第4回	360名以上
第5回	300名以上
第6回	100名以上

観察会以外の案内者数 128名

観察会当日以外の独自参加者で、実行委員会が把握できた分 500名以上



図1 姫ボタルまつりの受付風景



小野尻川最下流部左岸沿いのモウソウチク林
(第1回・第2回の観察会を実施)



西谷川・五ヶ野川合流部右岸沿いのマダケ林(第3回)



慧日寺境内のスギ林(第4回)



首切地藏尊上のスギ・ヒノキ混交林

図2 第1回姫ボタルまつりにおけるヒメボタル観察会の実施場所

○参加者年齢別・男女比率

- 小学生以下(約30%)・・・男女ほぼ同数
- 40歳以下(約20%)・・・女性がやや多い
- 60歳以下(約20%)・・・男性がやや多い
- 60歳以上(約30%)・・・女性がやや多い

○参加者居住地

丹波市以外よりの参加者が80%以上(阪神間中心)でした。

※ 丹波市民は観察会当日を避け、他の日に(実行委員会では参加人数把握せず)

○ 昼間のイベント参加者

総参加者約400名

講演会：約200名、自然観察：約100名、その他約100名

6. 今後の方針

○ 丹波地域全域のヒメボタル棲息調査(平成19年度より3年計画)

丹波市観光協会の全面的な支援により、新聞等で調査員を募集し、「森の蛍調査隊in丹波」の拡大

○ 第2回姫ボタルまつり実施

山南町主体→丹波市全体に拡大し実施

※ 現姫ボタルまつり実行委員会を核にして、丹波市全域から実行委員を募る。

○ 共催団体

丹波市観光協会(共催決定)

県立人と自然の博物館(予定)

商工会(現在合併推進中であり、合併後の丹波市商工会か旧町商工会か未定)

丹波市(今後の折衝)

○ 後援団体

第1回目後援に倍する、機関・団体に後援依頼予定。

7. 丹波のヒメボタル愛称決定「杜の蛍・姫丹波」

目的：愛称をつけることにより、丹波市民にヒメボタルをもっと身近な生物として愛着をより深めてもらう。

※ 平成19年度より醸造する「赤米どぶろく」の商標に使用。